

町民の皆様

厚真町教育委員会

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果の公表について

本年度実施された全国学力・学習状況調査における厚真町の子どもたちの概要をお知らせします。

教育委員会では、本年度の調査結果をもとに、今後の教育施策の充実と各学校の教育活動の改善・充実に向けて取組を進めてまいりますので、保護者の皆様をはじめ、地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であること。また、学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

1 調査の目的

児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育に関する施策と継続的な検証改善サイクルを確立して学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。

2 調査期日 平成29年4月18日(火)

3 調査の内容

(1) 対象学年 小学校第6学年、中学校第3学年

(2) 児童生徒に関する調査

① 教科に関する調査 国語、算数・数学

国語、算数・数学はそれぞれ、「主として『知識』に関する問題(A)」と「主として『活用』に関する問題(B)」を出題

② 質問紙調査

生活習慣や学習方法、学習環境、生活の諸問題、教科に対する意欲等に関する調査

(3) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や教育条件の整備等に関する調査

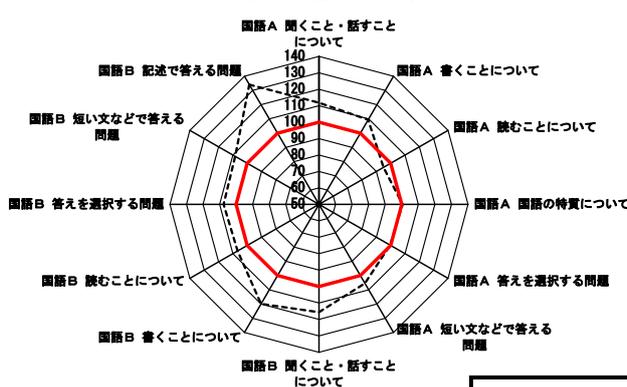
4 参加状況 参加学校及び児童生徒数(小学校:2校 40人、中学校:2校 39人)

5 調査結果の概要

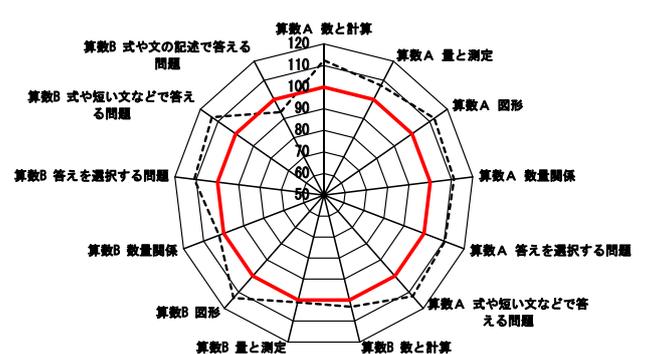
教育委員会では、平成24年度から全国の平均正答率を超えることを目標に学校と連携し、保護者のご理解・ご協力を得て学力向上に取り組んできました。小学校においては、国語、算数のA及びB問題で全国の平均正答率を上回り、中学校では、国語のA及びB問題で全国の平均正答率を上回りましたが、数学では全国の平均正答率を下回りました。

<小学校>

小学校国語の概略



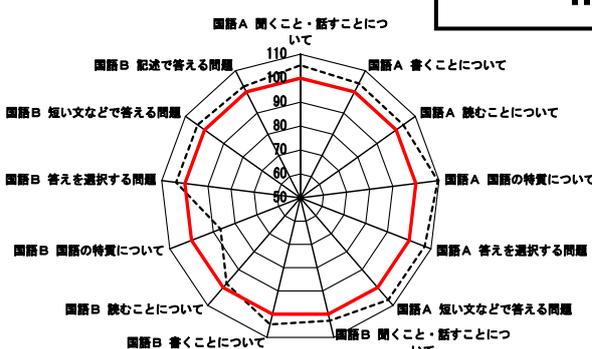
小学校算数の概略



※全国の結果を100としたときの厚真町の結果
— 全国の結果 (100)
- - - 厚真町の結果

<中学校>

中学校国語の概略



中学校数学の概略



6 道内市町村との比較分布から見る現状について



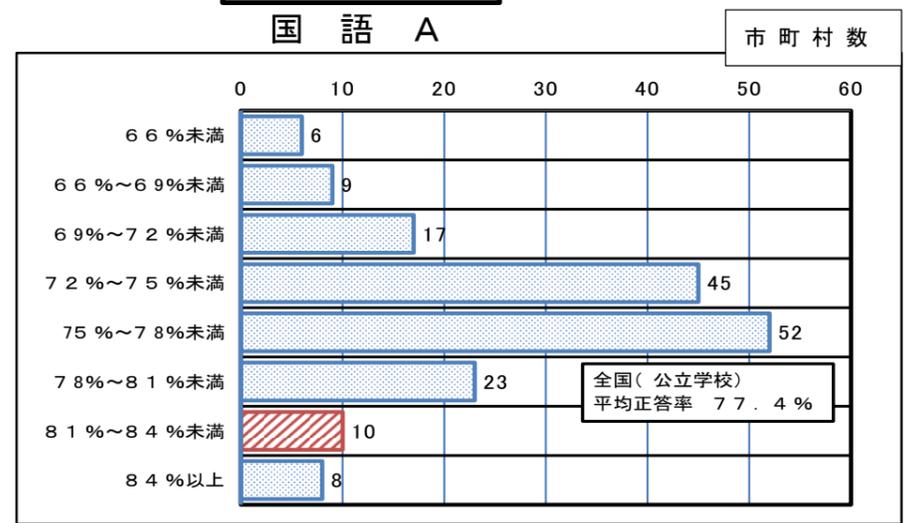
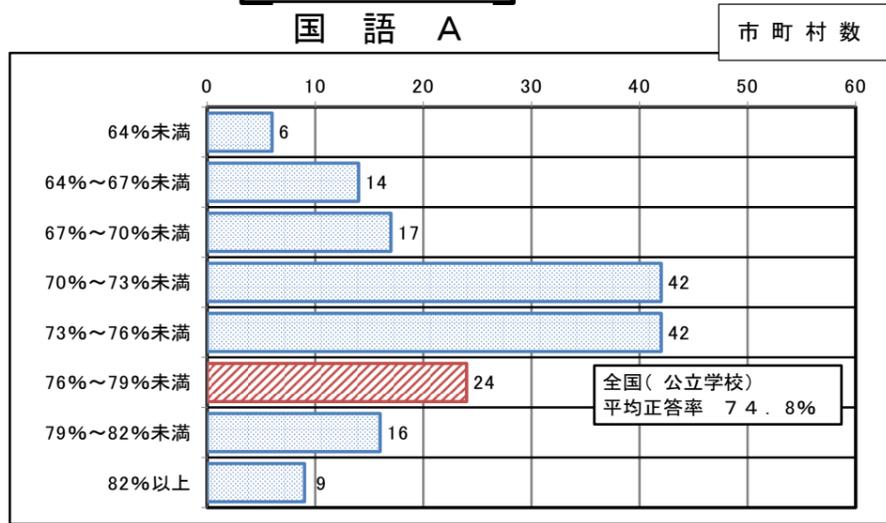
は、厚真町が属するグループ

全国比は、全国を100とした時の厚真町の割合

※ 厚真町の全国比は、小数点以下を四捨五入しています

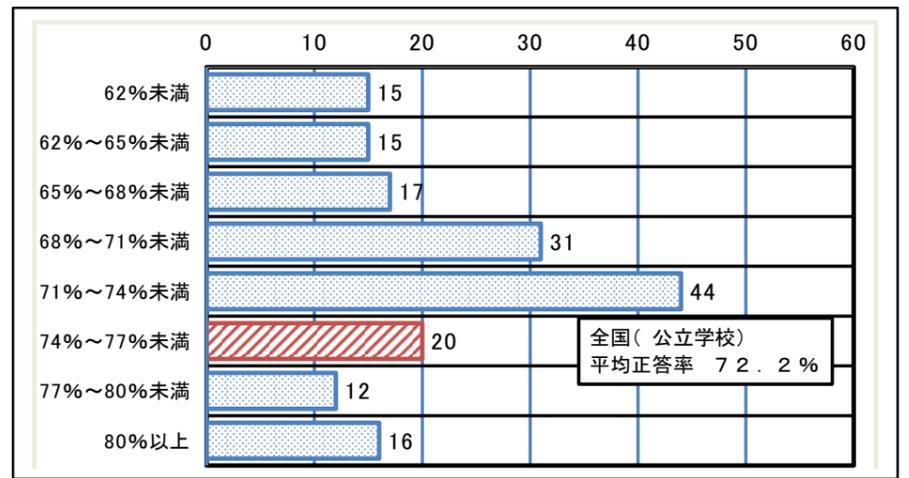
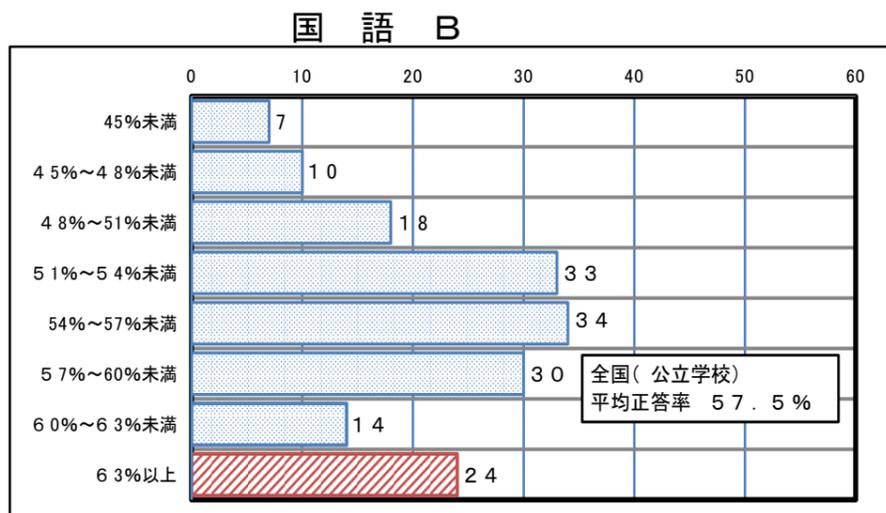
小学校

中学校



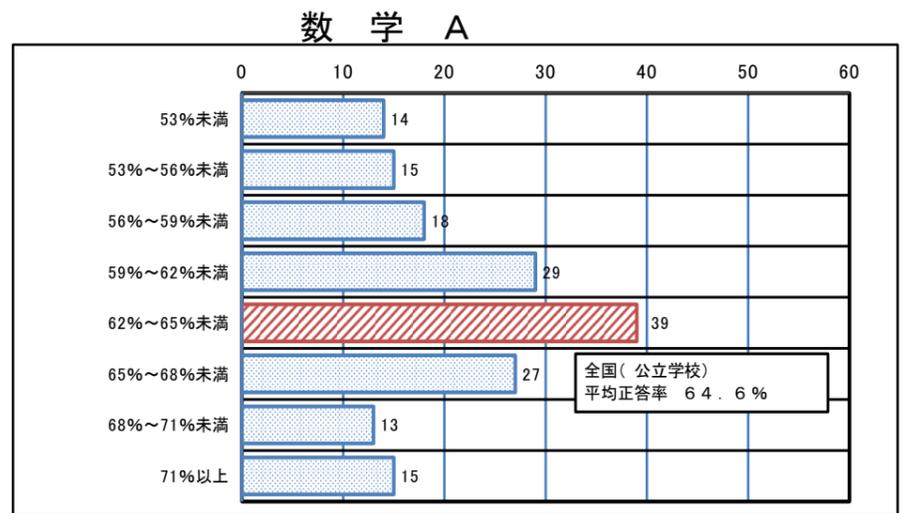
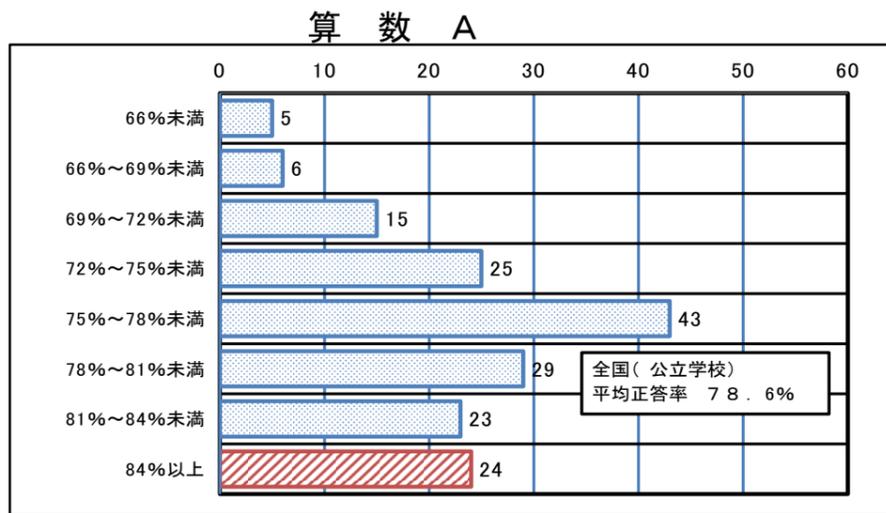
平均正答率	町	北海道	全国	全国比
	76.0	74.0	74.8	102

平均正答率	町	北海道	全国	全国比
	83.0	77.0	77.4	107



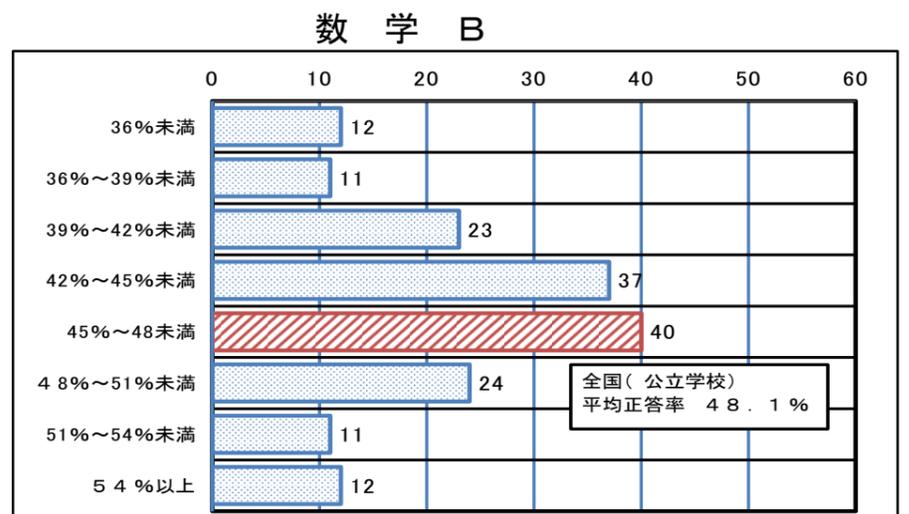
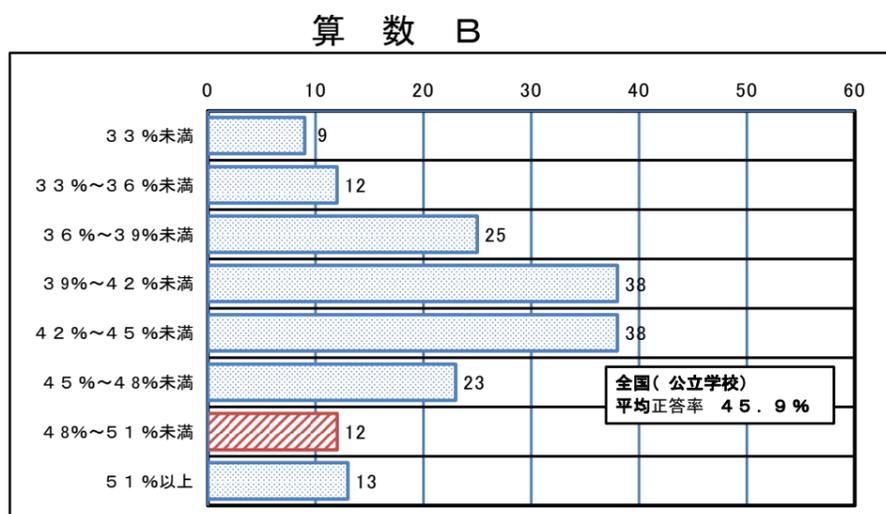
平均正答率	町	北海道	全国	全国比
	65.0	56.0	57.5	113

平均正答率	町	北海道	全国	全国比
	75.0	72.0	72.2	104



平均正答率	町	北海道	全国	全国比
	88.0	77.0	78.6	113

平均正答率	町	北海道	全国	全国比
	63.0	64.0	64.6	98



平均正答率	町	北海道	全国	全国比
	49.0	44.0	45.9	107

平均正答率	町	北海道	全国	全国比
	45.0	47.0	48.1	94

7 学力状況の概略

(1) 国語

<p>【小学校】</p> <p><良かった点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いること ・漢字を正しく読むこと ・目的や意図に応じ、適切な言葉づかいで話すこと ・目的や意図に応じ、必要な語句や文を引用して書くこと <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・手紙の構成を理解し、後付けを書くこと ・俳句の情景や表現の特徴をとらえて読むこと ・物語を読んで感想を伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりすること ・理由を明確にして自分の考えをまとめること 	<p>【中学校】</p> <p><良かった点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて資料を効果的に活用して話すこと ・文章を読み返し、語句の使い方を工夫して書くこと ・目的や意図に応じて材料を集め、自分の考えをまとめること ・文脈に即して漢字を正しく読むこと <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手に分かりやすいように語句を選んで話すこと ・事象や行為などを表す多様な語句について、場面や状況に応じて適切に使うこと ・根拠を明確にして、自分の考えを具体的に書くこと
<p>【さらに子どもたちの力を伸ばすために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日記をつける」「祖父母へ手紙を出す」など、実生活で文を書く経験を多くする。 ・新聞を読む（中学生であれば、論説などを読む）。 ・商品についている説明の文など、実用的な文を読む。 ・分からない言葉や漢字は辞書や辞典で調べてみる。 ・読書の習慣をつけ、日常化する。 ・漢字の学習では、漢字の構成や字形を意識して練習する。その漢字を使った短文づくりをする。 ・伝統的な言語文化にふれる機会を作る（新聞の俳句や短歌欄の参照）。 など <p>ご家庭におかれても日常生活の様々な場面で、文章の読み書きや言葉への関心を持たせることが大切です。</p>	

(2) 算数・数学

<p>【小学校】</p> <p><良かった点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算の意味、四則計算、最小公倍数、立体図形、二次元表などの基礎的、基本的な知識や技能が定着している ・算数の問題場面から見いだした数量の関係を立式したり、図に表現したりすること <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて、必要な情報を選択し、問題解決の方法を言葉や式にまとめること ・日常生活の事象を、表やグラフの特徴をもとに考察したり、表現したりすること ・割合の関係を正しくとらえて、その判断理由を言葉や式にまとめること など 	<p>【中学校】</p> <p><良かった点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・正の数と負の数の必要性和意味、平行移動した図形の作図、平面図形の運動による空間図形（円錐）の構成などの基礎的、基本的な知識や技能が定着している ・与えられた表やグラフ、資料から、必要な情報を適切に読み取ること <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・錯角、関数、比例定数、数学用語としての範囲などの意味の理解 ・事象と式の対応を的確にとらえ、事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明すること ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること ・資料の傾向を的確にとらえ、その判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること など
<p>【さらに子どもたちの力を伸ばすために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時計を読む。 ・温度計などの目盛りを読む。 ・買い物で釣銭の計算をする。 ・買い物で割引後の価格を計算する。 ・家庭にあるお菓子箱などを分解して、立体の性質を実感してみる。 ・身の周りの建物や公園の施設（遊具や花だんなど）で、図形の考え方を利用しているものを探す。 など <p>ご家庭におかれても日常生活の様々な場面で算数・数学が役立っていることを実感させることが大切です。</p>	

8 質問紙の結果から見た子どもの特徴（全国と比べ）

<良かった点>

- ・「国語や算数・数学の授業の内容がよく分かる」と答えた子どもの割合が全国よりも高い
 - ・「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と感じる児童生徒が多く、その割合は全国より高い
 - ・話し合い活動に進んで参加し、自分の考えをしっかりと伝えようとする子どもが多い
 - ・「先生は、自分のよいところを認めてくれている」と思う子どもが多い
 - ・家で、自分で計画を立てて勉強する子どもが多い
 - ・宿題や復習など家庭学習を積極的に取り組んでいる子どもが多い
 - ・学校のきまりを守っている子どもが多い
 - ・電子メディアの利用時間が少ない
- ### <改善したい点>
- ・「自分にはよいところがある」と思えるような自己肯定感を育むこと
 - ・家庭で、10分以上読書をするこ

9 質問紙の結果から見た正答率の高い子どもの姿

- ・規則正しい生活をする子ども（早寝、早起き、朝ごはん）
- ・宿題や予習、復習をする子ども
- ・10分以上読書をする子ども
- ・学習課題に対して自ら考え、自分から取り組む子ども
- ・自分によいところがあると思う子ども
- ・むずかしいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する子ども
- ・地域社会などでボランティア活動に参加する子ども
- ・ニュースを見たり、新聞を読んだりする子ども

<小学生>

- ・授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしている子ども
- ・住んでいる地域の行事に参加している子ども

<中学生>

- ・外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う子ども
- ・電子メディアの利用が少ない子ども

10 生活リズム調査や電子メディア利用アンケートなどから分かること

- 1 毎日朝ごはんを食べている子どもがほとんどです（ごくわずかですが、朝ご飯を食べてこない子どもがいます。）
- 2 就寝時刻が遅く、寝不足の子どもが、学年にもよりますが、1割から2割程度います。
- 3 電子メディア利用では、土日に2時間以上テレビを利用したり、ゲームをしたりしている子どもは、3割を超えています。
- 4 電子メディア利用のルールづくりが広がってきています。
- 5 ケータイ、スマホの個人所有率は全国平均を下回っていますが、ケータイやスマホ以外のゲーム機や音楽プレイヤー、タブレットなどでも、ネットに接続する子どもが多くいます。
- 6 インターネットやゲームを「やめられない」子どもが増加傾向にあります。

11 学力向上に向けた教育委員会の取組

教育委員会は子どもたちの学力の向上に寄与するため、今後も以下のような取組を一層推進してまいります。

1 厚真町学力向上推進委員会の取組

各小中学校の代表者で組織する学力向上推進委員会において、本町の児童生徒の学力の実態を把握し、学力向上に向けた学習指導の研究、学校間の連携、家庭との連携、教職員の研修に関することなどを行います。

2 授業における指導力の向上のための研修の充実

厚真町教育研究会と連携して、日々の授業改善に向けた先生方の共同研修を行っています。

また、先進地への視察を行うなど研修の充実に努めていきます。

3 児童生徒への学習支援の取組

児童生徒の学習指導を充実するための複数教員による指導、長期休業中の補充指導への支援などを行っています。

4 学びチャレンジ支援の取組

中学生の各種資格取得への補助を通して生徒が主体的に学び、チャレンジするための支援を行っています。